

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0272100744		
法人名	社会福祉法人柏友会		
事業所名	グループホーム桑寿園		
所在地	〒038-3104 青森県つがる市柏桑野木田字若宮255番地1		
自己評価作成日	平成24年9月29日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

--

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人青森県老人福祉協会		
所在地	〒030-0822 青森県青森市中央3丁目20番30号 県民福祉プラザ3階		
訪問調査日	平成24年10月23日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者と職員が共通の認識を持つことを目指している。毎朝の申し送り前に唱和し、1日の支援が理念とかけ離れないよう再認識しながら実現に取り組んでいる。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方や小・中学校、保育園の協力で季節の行事(念仏講・虫送り・学習発表会・運動会・文化祭等)に積極的に参加することで自然に交流ができて、それが楽しみの一つとなっている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域住民の方の意見を聞きながら、認知症についての不安や相談に応じている。また年数回の中学校・高校の体験学習を受け入れて、認知症や介護について交流体験をもとに理解を深めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年6回会議を開き、地区代表や民生委員、行政職員や家族代表等の参加により率直な質問や相談、意見交換や介護に対するアドバイスを頂きサービスの向上に活かしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営会議には市の介護課職員が毎回出席して下さり運営や現場の実績などを伝え、様々な課題を共有したり相談し信頼関係が構築されている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「身体拘束ゼロ」を職員全体が理解し研修や毎日の生活の中で職員同士が認識し業務にあたっている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体的虐待、精神的虐待等の勉強会を行うと共に、虐待の背景には様々な要因が有ることを把握し虐待防止を徹底している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度や日常自立支援事業等の研修会を行い学ぶ機会を設けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の時に家族や本人に重要事項を説明し、ホームで安心した生活が出来るよう具体的支援の内容の説明や要望の聞き取りをし、納得をしたうえで契約していただいている。また解約解除の場合の対応方針(住み替え)を相談している。重要事項改訂の際には説明し同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会時や行事参加で来園したときに生活状況をお伝えしたり、直接ご意見を伺ったりしている。又玄関に意見箱を設置し要望や意見を取り入れている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月特養との職員会議を開き意見を述べたり気付きや処遇について話し合いし、参加出来なかった職員も会議録を回覧することで周知出来ている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎月の運営会議で現場の状況を伝え、向上のための意見交換をしている。年2回健康診断や腰痛検査を行い職員の健康管理の対応を行っている。園より毎月、誕生月の職員へお花のプレゼントを行い職場環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人研修や職員の質向上のため内部研修、外部研修を受ける機会を作り人材育成に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	全国及び西北五GH協会に加盟し、総会・研修会には職員を参加させ交流を持っている。又実践者研修、リーダー研修の現場実習を受け入れて意見交換の機会も実践している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に本人や家族と面会し、困っている事や不安な事を少しでも解消して思いを受け入れて支援している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居にあたり、ケアマネジャーから情報収集して、家族と話し合いし信頼関係を築くようにしている。困っている事や不安な事を伺い、本人や家族の思いを汲み取り統合的な計画を立てている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人にとって安心して暮らせ、自立に向けた支援とは何か家族やご本人と話し合い、必要なサービスを選びながら柔軟に対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩であることを念頭に置き、いろいろな事を教えてもらいながら役割をもち、暮らしの役に立っていると思えるような場面作りをしている。入居者の尊厳を大切にしよう心がけている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の面会時、状態を伝えていき家族の悩みや困り事を聞き信頼関係を作れるようにしています。又本人と家族の間に入りながら関係作りが上手くいくよう関わっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの床屋や美容院へに連れて行ったり、地域の方の訪問の時に交流を図れるようにしている。友人、知人が面会にきた時はゆっくり話しができるように支援しています。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共通の話題を話したり、難聴の方や理解が困難な方もいるので入居者同士の橋渡しや仲介役としてコミュニケーションが取れるようにしている。活動や日常の作業を通して入居者一人一人の意見に耳を傾けたり声掛けし支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院している間も面会したり退院後についても本人・家族の相談に応じている。住み替えやサービス終了になっても気軽に遊びに来ていただける様に声をかけている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人が何を求めているか日々の会話の中で意向を聞き出し、また家族の面会時に相談しながら本人・家族の意向を汲み取る様にしている。ケア会議を行い、本人・家族の意向を尊重し希望に添ったプランを作成している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の状況は担当の介護支援専門員や本人・家族から情報を収集し、センター方式を作成しケアプランに反映させながら支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	24時間体制で一人一人の心身状態から日常の様子まで記録し職員が共有出来る。無理なく本人の出来る能力を現状維持出来る様に支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケア会議・担当者会議等においては、本人・家族の意見・希望を聞き入れながら、現状に即した介護計画を作成している。時には他職種の管理栄養士や主治医に相談しながら状態変化があればすぐに見直しを行い、本人主体に計画している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	24時間体制で様子を記録し、気づきについて申し送りを行い職員間で情報を共有しスムーズに入居者に関わる事が出来る様にしている。入居者の変化に気づき、ケア会議・モニタリングを行いながら介護計画を見直している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	外出・通院・買い物は、本人・家族の要望があれば迅速に対応している。日用品や化粧品等の買い物代行も行い不自由無く暮らせるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	祭りや地域の行事、保育園、小学校、中学校の運動会や発表会への招待等、民生委員やボランティアの協力がある他、女子美大OGIによる絵手紙作品作り教室、カラオケ、舞踊訪問、消防署との避難訓練等、各機関に協力頂き地域ぐるみで支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前から主治医をそのまま継続して通院し、受診介助を行って情報提供しながら状態の把握と、緊急時の医療の確認や他の疾患が見られた時は家族と相談しながら他医療機関への受診介助も行って支援している。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の体調管理をしながら変化に気づいた時はグループホームの看護師や施設に常勤している看護師と連携を図り、気軽に相談できる関係作りをしながら健康管理や医療活用の支援をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時には情報提供し不安を防げるように連携を図り、入院中も面会し、これからの情報交換や状態の確認等、病院関係者との連携も図り、今後の対応について話し合いをしながら相談できる関係作りを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期のあり方について、早い段階から本人、家族等と話し合い、希望を聞き「できること」と「できないこと」を含め十分に説明し、話し合い、終末期までの支援する体制が出来ている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	すぐに対応できるようにマニュアルを準備し、目につきやすい場所に設置している。また、研修委員会を設け、職員は研修を受けて全員が認識できるようにし、実践力を身に付けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の消防署の協力を得て、年2回の避難訓練を実施し、消火器などの使い方等の指導を受けている。また、避難経路の確認や誘導方法を身につけています。非常時には直ぐに駆けつけてくれる体制が取れていて、地域との協力体制を築いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日頃の会話で、昔の輝いていた頃、得意な事、職業などを聞き出し、尊重した声掛けをしている。トイレ誘導時は、周りにきづかれぬよう、「散歩に行きましょう。」等の声掛けし自尊心を傷つけないように心掛けている。不穏時は訴えを否定せず傾聴し、落ち着かれるまで待つようにしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃の会話で、利用者が素直に自分の思いを話し、出来る事は支援している。買い物の要望があったら代行し提供している。入浴時、拒否されたら次の日入浴してもらいその日の気分に合わせて自己決定できるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	活動時、毎回声掛けをしているが、拒否されたら無理せず居室で過ごしてもらう。食事の時、遅めの離床となった時は食事時間をずらして提供している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎朝、整容し、一人で出来る人は化粧をしている。足りなくなった化粧品を買い物代行しお洒落を楽しんでいただいている。外出時洋服と一緒に選び、季節や氏の好みを考えながらアドバイス等行い、意思決定が出来るようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食器拭き、おしぼりたたみ、洗濯たたみを手伝って頂いている。季節の食材の下ごしらえや団子作りをして昔の話しをしながら行事を楽しんでいる。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	三食の他におやつ、水分を午前、午後と提供している。夏場は自由に水分補給できるように居間にポットを置いている。食べる量が低下してきたら管理栄養士に相談し健康管理行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人で出来ない人は介助で口腔ケアしている。昼食後は残存機能維持の為、見守りで口腔ケアしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	チェック表に記入し、排泄の間隔の把握に努め時間毎に声掛けや誘導を行っている。自分で出来る部分は見守りで行い、出来ない部分を一部介助し自立に向けた支援を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	飲み物を工夫して提供し水分を多く摂ってもらっている。軽い運動をしてもらい、極力下剤に頼らない様にし、野菜を食べない人には、食物繊維や補助食品を利用している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	その日の気分に応じ、ゆったりと入浴してもらっている。皮膚疾患に気を付け、清拭や足浴、手浴等清潔保持に努めている。拒否などある時は職員が交代で声掛けして対応している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その時の状態に合わせて休養してもらい、夜間、安眠につながるよう利用者に合わせた排泄介助用品を使った対応している。関わりを持って眠れる様にしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者の既往歴や内服薬などファイルを作って誰が見てもわかる様にしている。処方薬が追加された場合は家族に情報を知らせている。誤薬のないように名前を呼び確認し、服薬チェック表を利用し確実に服用したか確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活に張りが持てるように食事の盛り付け、おしぼりたたみ洗濯たたみ等の役割を持っていただいている。皆さん歌が好きな活動や余暇には一緒に唄い楽しみを共有している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族の希望で外出や外泊、地域の行事や運動会などの観覧、近場への買い物や美容院等、一緒に行ったりしている。天気の良い日は気分転換に外気浴等を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を所持している方も数名おられ買い物の支援を行い、金銭管理を職員と共に行っている。管理できない方は家族の同意を得て金銭管理をこちらでしており、必要に応じ物品を購入している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望に応じ、気軽に家族や友人に連絡が取れる様支援している。年賀状を出したい人には、はがきを購入して支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	部屋の空間を活かし、家具や飾り物の配置に心がけている。廊下の壁には季節を感じて頂ける様に装飾に心掛けている。廊下、居室に緑が目に入る様に観葉植物を置いて季節を感じ取ってもらっている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下に椅子を設置しており、一人で過ごせる空間があり、外を眺めたり、休んだりしている。居間の長椅子には気の合った人が座り、コミュニケーションがとれる空間を設けている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の使い慣れたタンスや家具等を使用されている。家族写真や壁に飾りを掛け、安心して生活出来る空間を作っている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室には、入り口に名前を付け部屋が分かる様に工夫している。共同の風呂やトイレにもプレートを掛け場所が分かる様に配慮している。		